

よこかわ うめこ
横川 榎子



みなさんは横川榎子という人を知っていますか？

「女に学問はいらない。家のことをしてればいい」と言われていた明治の中ごろ、「女子にも教育が必要」と考え、八王子に多摩地方ではじめての女学校と幼稚園を作った人です。女学校はのちに、東京府立第四高等女学校(現在の東京都立南多摩中等教育学校)にひきつがれていきます。上の写真は、昭和11年(1936)にその功績をたたえて、校庭に建てられたものです。

たいへん べんきょうか 大変な勉強家

よこかわめこ かえい ねん 横川 棧子は嘉永6年(1853) 武蔵国多摩郡横川村471番地(現在の八王子市横川町)の旧家に生まれました。父を高徳、母を新といいました。小さい頃より勉強にはげみ、漢文、習字、算数などを学びました。

めいじ ねん 明治11年(1878)からは、東京女子師範学校(現在のお茶の水女子大学。女性教員を育てるため、めいじ ねん 明治7年(1874)11月開校しました)の付属幼稚園で保母練習生として学び、のちにせんせい 先生として たら 働きました。たら 働しながらも、ほいくしょうか 保育唱歌、せいようしょうか 西洋唱歌、こと ふうきん 琴、ふうきん (アコーディオン)などのおんがく 音楽をはじめ、ぶつりがく 物理学、こうとうすうがく 高等数学などむずかしい べんきょう 勉強を つづ 続けました。

ここでめいじじだい 明治時代のはじめのころの ぎょういく 教育についてふれておきます。

めいじ ねん 明治5年(1872)に「がくせい 学制」という せいど 制度ができて、ぜんこく 全国に しょうがっこう 小学校をつくることになりましたが、当時は ぎょういく 教育に必要な おんぎん 金のすべてを ちいき 地域の じゅうみん 住民が ださなければならず、多くの しょうがっこう 学校は、お寺や村の じゅうかいじょ 集会所を利用した ちい 小さなものでした。また、現在の けんぎょう 公立 しょうがっこう 小学校と違って、じゅぎょうりょう 授業料や ぎょうかしょだい 教科書代もかかりましたし、いえ 家の してごと 仕事の手伝いなどで しょうがっこう 学校にいけない こと 子もたくさん いました。特に じょし 女子に対しては、「にょに 教育なんかいるもんか」「はりしごと 針仕事ができれば いい」といった 江戸時代からの かんが 考えが づよ のこ 強く残っていました。わたしたちが 住む 八王子でも、めいじ ねん 明治7年(1874)の 八王子の じゅうがくりつ 就学率(しょうがっこう 学校に行くはずの こと 子どものうち なんにん 何人が しょうがっこう 学校に がつく 通学していたかを 示す 割合)は、おんこ 男子は46%、じょし 女子が37%でした。また、市内の せんせい 先生は、すべて だんせい 男性の せんせい 先生でした。

このように ぎょういく 教育の せいど 制度や ぞうしき 組織も しっかり 整っていない中、なか 東京に いろいろな べんきょう 勉強を つづ 続けることは、とても たいへん 大変だった と思われます。強い 意志をもって がんば 頑張ったのです。

はちおうじ じょし 八王子に女子のための ぎょういく 教育施設を せつりつ 設立

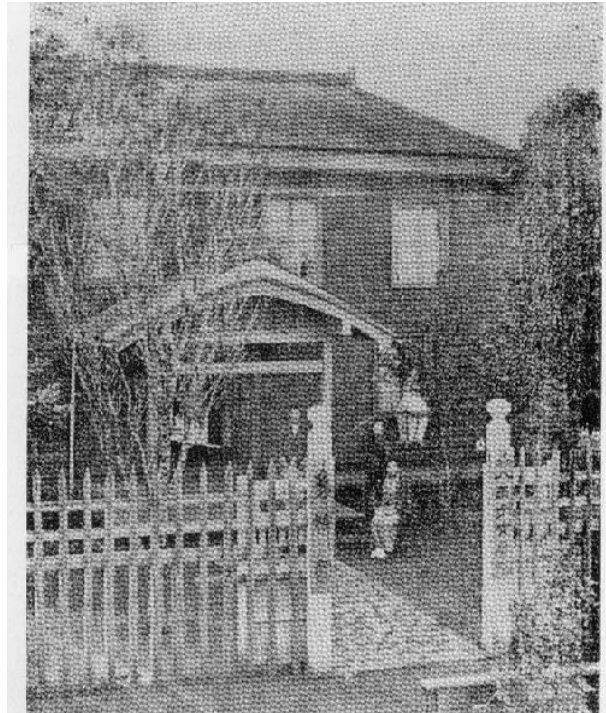
めいじ ねん 明治17年(1884)、ちちおや 父親が なくなつたため 八王子に 戻ってきました。

そして、はちおうじ じょし 八王子の じょし 女子の ぎょういく 教育が 非常に 遅れていることを 痛感し、自宅へ じょし 女子を集めて さいほう 裁縫や いろいろな べんきょう 勉強を 教えました。めいじ ねん 明治21年(1888)には、よこやままち 横山町の 住宅を 借りて じょし 女子のための ぎょういく 教育 授業所をつくります。めいじ ねん 明治24年(1891)には、うえのまち 上野町4番地(今の 天神町)に せいようふう 西洋風の しょうがっこう 校舎を けんちく 建築、翌年 明治25年(1892)には 認可をうけて、しりつ 私立 八王子女子学校と 八王子幼稚園を せつりつ 設立しました。 じょし 女子と 幼児を 対象にした ぎょういく 教育機関は、多摩地区では 初めての ものでした。

女子教育の向上をめざして

幼稚園の科目は、木の積み立て、板ならべ、
画き方、数え方など16の科目がありました。

女学校の教科は、修身(道德)、読書(読み書き)、習字、作文、裁縫、筆算などが重視され、
そのほか希望制で西洋史や植物学などたくさん
の教科がありました。それには、たくさんの
先生が必要でした。また、西洋の進んだ教育
の道具をとり入れたため、お金がたくさんかか
り学校経営を悪化させることにつながりまし
た。しかし、榎子は自分の家にあるものを売っ
てお金をつくり、必死の努力で教育を続けま
した。「優れた教育を女子にも受けさせたい」
という理想と強い気持ちを持って学校維持の



▲ 私立八王子女学校

ために頑張ったのです。明治27~28年(1894~5)の日清戦争、明治30年(1897)の
八王子の大火事、明治37~38年(1904~5)の日露戦争といった出来事も生徒数の減少
(月謝の減少)につながる大きな要因でした。明治39年(1906)3月までには自分のお金を
数千円も使いました。明治41年(1908)の大卒の銀行の初任給が、35円でしたので大変な
金額だったことがわかります。

府立高等女学校設立

歯をくいしばり頑張った榎子は東京府に表彰されることになりました。この頃には、
八王子町議会も女子教育が大切であることを考えるようになり、府立女学校を八王子に置く
努力をして、明治41年(1908)東京府立第四高等女学校が開校することになりました。榎子
は、八王子女学校の校舎・校具一切を東京府に寄付し、在学中の生徒のすべてを新設の高等
女学校に入學させて、女子教育の第一線を退きました。その後も、彼女は八王子婦人会長
などをつとめるなど活躍し続け、大正15年(1926)に73歳で生涯を閉じました。また、天神
町の校舎は、明治41年(1908)から2年間、先生を養成する場所として使用され、その後、
明治43年(1910)には図書館設立の計画が決まり、翌年には八王子町立図書館、大正6年
(1917)9月には市立図書館となり、大正12年(1923)まで使われました。

しらべてみましょう

ひとつのテーマについて調べる時、何冊かの本を調べることは、とても大切なことです。次にあげる参考文献は、図書館にある本の中で、小・中学生のみなさんにもわかりやすいものです。自分で調べ、まとめてみましょう。市内のどの図書館に所蔵しているかは館内OPACで検索、または職員へおたずねください。

※☆印のついているものは、特に小学生におすすめのものです。

『One Two えいと vol.20 との号』 えいと舎／編 2000年

「東京府立第四高等女学校と横川榎子」の記事がある。

『明治時代の八王子』 八王子市郷土資料館／編 1993年

文章は少しむずかしくはめだが、資料や写真、図や絵がたくさんついている。

『八王子市郷土資料館だより』 八王子市郷土資料館／編 1991年

No.1～No.40を集めて本にしたもの。No.3号に「女子教育の先覚者、横川榎子」がまとめられている。

☆『郷土みてある記』 八王子市生活文化部広報課／編 1995年

小学校の先生が、八王子の歴史や関係の深い人物や動・植物、事柄を、小学生にもわかるようにやさしく解説したもの。

【参考】学校の歴史についての本

☆『ゾクゾク「モノ」の歴史事典 5』 2000年

年表の形で、エピソードと写真を交えながら、わかりやすく解説している。

☆『町とくらしのうつりかわり 1 みんなの学校、昔と今』 1992年

初めて町の姿や歴史を学ぶ小学校3年生くらいから利用できるよう、明治以降のほぼ100年の学校のうつりかわりを、写真やイラスト入りで説明。

☆『ひとり調べができる 時代別 日本の歴史 9 明治時代(前期)』 1997年

学制が公布された明治時代の様子が説明されている。(P30 新しい教育)

編集・発行 八王子市中央図書館

平成27年(2015年)3月

令和3年(2021年)12月 改訂